



西清里区朝日ヶ丘班とは

清里高原・清泉寮前ポール・ラッシュ・ストリートを下り
小海線を渡ると
そこは自然が一杯
清里高原・牧場通りを中心とした朝日ヶ丘エリアです
馬や牛たちが長閑に憩う牧場、彼らの大切な食料庫・牧草場がそこここそして散策しながら自然そのものの森から新鮮な酸素をいただき落ち着いた佇まいのレストラン・宿・ショップなどがお楽しみ牧場が続く牧場通りには素敵な花々が季節ごとに咲きのんびり散策する高原のひとつときを満足させてくれます



朝日ヶ丘・開拓の歴史

1945年現開拓住民の一世が入植、痩せた土地、耕しにくい耕地、水源がない、極寒の地そんな苦勞を重ね、酪農という道で地域の生業が成り立つようになった高度成長期に入ると、普通の旅行では飽き足らない国民の旅行のスタイルが代わり、牧場はこぞって民宿を併設、その後のペンション・清里ブームで一大観光地となってきた朝日ヶ丘エリアは清里駅前、国道側と違い開拓道路しか通じていなかったため乱開発からは逃れることができていた。一部のレストラン、ペンションはこの静かな環境で営業を始めるころが出始めたそこへ山梨県営丘の公園が建設されることとなり、地区を南北に通っていた開拓道路が一気に整備されることとなったこの長閑な酪農景観、環境を守ろうと『朝日ヶ丘の願い』を制定して住民及び新規移住者へも遵守をお願いし続けている厳密な景観条例的なものを前面に押し出さずともこの景観に惚れて移り住む人々は、建物も庭造りも、看板も地域の雰囲気準じてもらえる、それは維持向上活動の賜物だと信じている

景観委員会の設立

平成7年、酪農に基づく景観を構築しようと当時の町長の提案のもとに行政班の中に「牧場委員会」を設置、業者ではなく住民の手で牧場を設置した。

酪農に基づく景観のベースとなった牧場は牧場、牧草地に限らず、民家、ペンション、レストランなど地権者の了解が得られれば沿道全てが酪農景観の対象として設置を続けた。翌平成8年「景観委員会」に改称、月例の美化作業、年二回の花植、牧場のメンテナンス、集落の環境整備にと委員会主導で景観維持活動を現在まで継続しています



春と夏♪牧場通りは花一杯に

朝日ヶ丘班景観委員会の年間としての活動は花植がメイン。春と夏の年二回、景観委員会が90カ所1200ポットの花植計画を準備して園芸市場で仕入れ花植の準備を行う。1,200株の花は90個のプランターが3~5個セットで歩道のプランター台に設置されるので作業スペースで予めプランター台ごとに花の種類、色合い、花の背の高さ等の組み合わせを決め、籠ごとプランター台に配置しておく。

使用する土は畑で地元の牧場から出た堆肥を混ぜておきプランターに毎年入れ替えている

花植当日は90世帯の住民が五つの組ごとに設置されたプランターを一斉に植える。この時ばかりは集落にこんなに大勢女性が出たんだと驚く程多くの住民が参加する



4~11月は毎月一度の住民総出の美化作業

草刈りは歩道際だけでなく牧柵の裏まで雑草を払うこだわり

エリア内の石積みも地域の開墾で出た石を使って住民の手で積んでゆく

歩道の植え込みには地元の高校の農業科へ苗を発注したキャットミントが植えられ住民達が丁寧に雑草といっても強靱な牧草を手作業で除草する

観光地でもある地域なのでゴミ拾いは当たり前、道路に付着した落葉松の細かい落葉も除去



ポケットパークの整備

朝日ヶ丘地域に4カ所のポケットパークを設置、住民も旅人もこの酪農景観の中、癒やしの時間を過ごして戴いています
 ポケットパークによっては小さな村の図書館を設置、歩きの一服、清里周遊バス『ピクニックバス』待ちのひとときに利用して戴いています
 また朝日ヶ丘地区の森の中には開拓時代の道路もあり、その時代を想いながらのトレッキングのためのマップを自由に手にとって貰うポストを設置



朝日ヶ丘の希望



『朝日ヶ丘の希望』

平成27年朝日ヶ丘へ入植して75周年を記念して『朝日ヶ丘の希望』を現代に則した形で改定

厳密な景観条例的なものを前面に押し出さずともこの景観に惚れて移り住む人々は、建物も庭造りも、看板も地域の雰囲気に合わせてもらえる、それは維持向上活動の賜物だと信じている

清里・朝日ヶ丘の住民は、清里の美しい自然の中に暮らすことを何よりの幸せとして過ごしています。清里・朝日ヶ丘の歴史は1945年から開拓のために入植してきた人々によって切り拓かれました。標高1,100mを超える高冷地ゆえに「何も無い、何も育たない」この大地に『夢を叶えたい』という希望を抱いて、開墾されたのです。彼等の残した開拓精神(フロンティア・スピリット)を心に留め、私達は現代のバイオニアとしてこの地に脈々と伝わり創りあげてきた他に類を得ない快適な街を大切にしています。大自然と闘いながら苦勞を重ね先人達が築いてきたこの素晴らしい景観・環境がいつまでも保たれてゆくことを希望しています。

開拓70年を迎えこの地を愛し続け暮らす開拓民、この地に出会い終の棲家と決めて住民となった者、皆で力を合わせ常日頃から景観・環境をより良くしようと活動が続いているからこそこの今のこの景観・環境があります。この地に棲む者、季節毎に訪れる方、一期一会で出会った旅人まで気持ちのこもったこの街の美しい景観に心癒され、平穏な気持ちで過ごすことができるように、皆で交通ルールを守り、皆が愛し植えた花々木樹を大切に、ゴミが捨てられていない街であることを誇りに思います

平成27年6月15日
清里・朝日ヶ丘班住民



地域景観維持向上活動のワークショップ

八ヶ岳南麓風景街道の会でのワークショップ

平成20年11月26日 八ヶ岳南麓風景街道の会での第1回ワークショップ
『牧場通りを歩く』
牧場通り現地視察、取り組みの説明ののち、清泉寮多目的ホールで現山梨県立大学箕浦一哉准教授によるワークショップを実施

地域景観維持向上活動のワークショップ

平成28年度 関東甲信越建築士会ブロック会

青年建築士協議会 山梨大会

ワークショップ『地域づくりと建築から変化する景観』

八ヶ岳南麓風景街道の会主催のワークショップとして実施
自然景観の中での建築、実際に移住した住民がどんな希望を持って終の棲家をこの景観の中建築したか。また移住してからのライフスタイルと建物、外構との関係などについて朝日ヶ丘地区の視察と現地視察の後清泉寮多目的ホールでのグループ討議ワークショップを行った



景観維持活動の成果

酪農景観という住民共有のテーマを維持向上することにより、住んで良し、訪れて良しの地域景観につながった



この恵まれた自然景観
大自然はそのまま手をつけず
景観は人が守り育ててゆく必要がある

2016年11月16日 朝日ヶ丘班景観委員会